



高齢者の肺炎の予防とワクチン接種について

日本における肺炎による年間死亡者は約7万5千人で、全死因における割合は5.0%、順位は第5位です（厚生労働省2024年人口動態調査）。これには、高齢者の飲み込み機能の低下に伴って発症する「誤嚥性肺炎」は含まれていません。肺炎で死亡する人の95%以上が65歳以上の高齢者です。特に95歳以上では死因順位の第1位（死亡割合の約2割）を占めるなど、高齢者の罹患・死亡率が極めて高いのが特徴です。

肺炎の代表的な症状は、38℃以上の高熱、長く続く激しい咳、黄色などの痰、呼吸時の胸の痛み、息苦しさで、悪寒や倦怠感を伴うことが特徴です。肺炎は肺の奥に炎症が起きる疾患で、風邪とは異なります。ただ、高齢者の場合は典型的な高熱や激しい咳などが出にくい傾向があり、風邪と見分けがつきにくい場合があるため注意が必要です。高熱や激しい咳が数日続いたり、息苦しさをを感じる場合は、自己判断せず、早めに受診しましょう。

肺炎の予防には、毎日の手洗い・うがいによる感染対策、口腔ケア、十分な栄養と休養によ

る免疫力の維持が大切です。特に高齢者や基礎疾患がある方は、重症化と死亡リスクを軽減させる肺炎球菌ワクチンの予防接種が極めて有効です。

肺炎を起こす原因菌で一番多いのが「肺炎球菌」です。現在、各自治体で満65歳の方を対象に肺炎球菌ワクチンの公費助成（定期接種）が行われています。公費の対象は満65歳の人だけで、他の年齢は任意接種（全額自己負担）となるので注意が必要です。また、今年4月から公費の肺炎球菌ワクチンの種類が23価（PPSV23）から持続効果が高い20価（PCV20）へと変わりました。23価では接種効果が約5年でしたが、20価では1回のみで再接種は原則不要です。アレルギーや免疫不全、心臓・腎臓・肝臓・血液などの病気のある方、過去に肺炎球菌ワクチンの接種をしたことがある人は対象外となる可能性があるため、予防接種の予約前に医師へご相談ください。



<お知らせ>

■ 高齢者肺炎球菌ワクチン（公費対象）

★当院では予約制です。接種希望日から1週間以上前にご予約ください。

- 対象：満65歳の方（65歳の誕生日当日から66歳の誕生日の前日の1年間）
- 接種券が65歳の誕生日の2か月後頃に自治体から届きます
- 公費接種費用：5,500円（大津市の場合）
- 当院任意接種（自費）費用：9,900円（税込）

■ 6月から金曜午前外来に、市立大津市民病院（消化器外科）の医師が交代で診療を担当しています

- 第1・3週 廣川 文鋭（ひろかわ ふみとし）医師
- 第2週 大住 渉（おおすみ わたる）医師
- 第4週 田中 慶太郎（たなか けいたろう）医師
- 第5週 吉田 遼（よしだ りょう）医師

■ 8月～金曜午前外来の今村所長の診療は、第1・3・5週に変わります（8月のみ第2・4週）

- 外来栄養指導を再開しました。第1・第3（月）13時～16時
- 特定健診、がん検診（肺がん、大腸がん、前立腺がんなど）を受けましょう（予約制）

6月の太陽光発電量 **1,051kwh**

CO2削減量… 530kg
杉の木の年間吸収量 約38本分